

「福島県立博物館友の会」訪問報告

9月17日は、秋の爽やかな青空のもと、会津若松市にある福島県立博物館を訪ねました。山形県立博物館には、展示案内などの活動をしているボランティアが組織されていますが、1泊2日の予定で会津方面の博物館などを巡る研修が行われました。この研修に参加したボランティアのなかに友の会会員もおり、せっかくの機会なので福島県立博物館友の会の活動についてお話をうかがってこよう、ということになりました。



ボランティア研修での見学も一通り終了し、会議室に通されると、友の会会長佐藤弘子さん・学芸課で友の会担当の小澤義春さん・笹川英俊さん

の3氏が迎えてくださいました。こちらの参加者は、渡辺・真壁（以上、友の会役員・ボランティア）、吉田・押切（以上、友の会館内幹事・ボランティア担当）、永幡（友の会事務局員・ボランティア担当）です。30分程度のつもりが、終わってみれば1時間も話し込んでしまいました。その概要は次のとおりです。

【友の会設立のねらい・経過】

会津若松市の名士らによって、博物館開館2年後に会員約200名で発足。2年目以降会員数500名程度で推移しており、現在の会員数は700名程度。集客力のある博物館事業・友の会事業により入会者が増加する傾向にある。11月には、友の会20周年祝賀会を開催予定。

【館とのかかわり】

博物館に友の会担当がおかれ、友の会活動の都度、職員を通じて活動場所を提供してもらっている。友の会専有の場所はないので、博物館に対して賃料や光熱費などの支払いはしていない。

【活動・組織】

現会長の体制より、各種委員会が設けられた。今年度は、総務・広報・行事・研修・20周年祝賀会実行委員会等の7委員会が活動している。サークル活動も盛んで、鉱物愛好会・古文書愛好会などが活動している。古文書愛好会では、収蔵資料を読解し、その成果を出版した。

【ミュージアムグッズ】

友の会ショップ設置を県に打診してきたが、今年度秋に実現することとなった。移動式のワゴンで商品を展示（希望者には販売）する方法をとる。商品は、県内作家作品、絵葉書。

【その他】

友の会出版事業が小規模であることから、図録頒布収入に対する課税はない。

会員は企画展等無料観覧できるが、会員の入館料は友の会会計から博物館に収めている。

お話をうかがって、活気ある友の会活動の様子が分かりました。会員が楽しみに集う催しが、会員以外の人をも博物館に呼び寄せる効果を生んでいるようです。収穫ある訪問となりました。

平成20年度 共同企画展「埋もれていた米ものがたり」

☒「米どころ」と言われ、良質な米を生産している山形県が、どのようにして米作りを始めて、現在のような姿になったのか。2千年もの長い間地中に埋もれていた「米づくり物語」を、水田や住まい、土器、農具などの出土品をとおして振り返り、「米どころ山形」の原点を探ろうとするものです。

今回の企画展は、(財)山形県埋蔵文化財センターで行われてきた発掘調査の資料を活用しさらに展示することで、博物館と埋蔵文化財センターとの共同で開催します。

◆開催期間：平成20年12月6日(土)

～12月21日(日)

◆会場：山形県立博物館 第3展示室

◆展示解説会：12月6日(土)・13日(土)

・20日(土)午後1時30分より

(財)山形県埋蔵文化財センター職員



【主な展示内容】

(1) 「米づくりの始まり」

米作りは、縄文時代の終わり頃朝鮮半島から北九州に伝わり、またたたく間に弥生時代初頭に日本海側の山形・秋田・青森県でも米作りが行われるようになる。

その証となる糊の付いた土器など米作り始まった頃の資料を紹介し、県内最初の「米作り」の足跡を紹介します。

(2) 「みのりを求めて」

近年の発掘調査から、古墳時代始めの“ムラ”の様子が詳しく分かって来た。東海・北陸地方と同じ様な構造を持つ住居や土器などが多数発見された資料紹介し、これらからより良い稔りの地を求めて山形に遣って来た人々の様子を紹介します。

(3) 「鍬・鋤・祀り」

近年、古墳時代の遺跡から鋤や鍬などの木製農具が大量に出土し。米作りの農具や稲作に関する祀りの道具から、農業の様子や農耕に係わる祀りなど、米作りをした人々の生活を紹介します。



(4) 「国家管理の農業へ」

奈良時代から平安時代になると、律令体制のもと水田も計画的に整備(条里制)され、米を税(租)として徴収するようになります。出土した木簡などから田圃の管理規定や稲の作付けなど、国家が詳細に管理する様子を紹介します。

【主な展示資料】

① 田田市生石遺跡出土土器外(弥生時代) ② 天童市高嶺南遺跡出土土器・管玉外(古墳時代)

③ 山形市馬洗場B遺跡破鏡・木製品(古墳時代) ④ 山形市服部・藤治屋敷遺跡木製農具外(古墳時代) ⑤ 山形市梅野木前遺跡出土土器(古墳時代) ⑥ 遊佐町上高田遺跡木簡外(平安時代)

佐藤泉植物標本

学芸員 吉田 哉

佐藤泉略歴

1864年（元治元年）3月25日 飽海郡観音寺村

大字小泉字北豊田生まれ

1886年 7月 西村山郡白岩小学校四等訓導

1888年 9月 飽海郡観音寺小学校訓導

1893年 9月 飽海郡遊佐小学校長（29歳）

1916年10月 観音寺村長（52歳）

1924年10月 観音寺村長勇退（60歳）

1939年（昭和14年）2月14日 逝去（75歳）

師範学校卒業後最初の勤務校は西村山郡白岩小学校であった。1887年（明治20年）西村山郡教育品展覧会に出品して一等賞を受けた。残念ながらこの標本は現在見当たらないとのことである。

郷里の観音寺小学校に転任してからは、鳥海山をはじめ近郊の植物研究に大いに活躍した。松嶺出身で、北海道大学で植物を専攻した川上滝弥が、植物学雑誌第9巻から11巻（1895-97年）にわたって連載した「荘内顕花植物」については有力な協力者であった。川上の緒言に「…主ニ予ガ採集セルモノナリト雖モ中村正雄、佐藤泉両氏ノ好意ニヨリ得タルモノ亦尠カラズ、産地中観音寺、小泉、北俣、青塚ト記スモノハ概ネ佐藤氏ノ寄贈ニ係ルモノニシテ貴重ノ材料ナリ」と書いている。

このころ採集した標本は、教材としてそれぞれ関係する学校に寄贈された。観音寺小学校に1891年（明治24年）植物標本512、木幹標本52を寄贈したが現在は不明である。また遊佐小学校に植物標本1,276を寄贈した。植物標本は標本棚に当時のまま分類され遊佐小学校に最近まで保管されていたが、同校の改築を機に遊佐町立図書館に移された。B5版台の画用紙にはられ一つ一つ上に半紙をあて見開きに科名・種名・和名・産地・採集年月日が記され、花の解剖図が描かれているものもある。

それを何枚かごとに洪をひいた和志の包紙と紐で包まれている。その労作は大変なものである。

佐藤家に残る家系図には「…教職ニアル頃、非常ニ植物研究ニ熱心ニシテ年々コレガタメニ鳥海登山ヲ行ウ。…植物研究家トシテ庄内ニテ第一位トモ云ハルルベク名声ニ多方ヨリ之ヲ聞キニ来ルモノアリ。所集数千種皆之ヲ母校山形県師範学校、長男湊ノ母校荘内中学校及四女染ノ母校酒田女子校ニ各数千種ヲ寄贈ス。…」とある。ここに記

述されている荘内中学校の標本は、遊佐小学校の標本より新しいものである。大きな戸棚の64の引出に標本が入れられ、全体にガラス戸がある。台紙に貼られたものもあるが、一部は新聞紙に包まれたままのものもある。最近まで鶴岡南高等学校に保管されてきたが、本館に移管されることになった。



友の会出版物のご案内

『庄内の自然—大地と生き物の移り変わり—』（2008）

頒布価格 800円

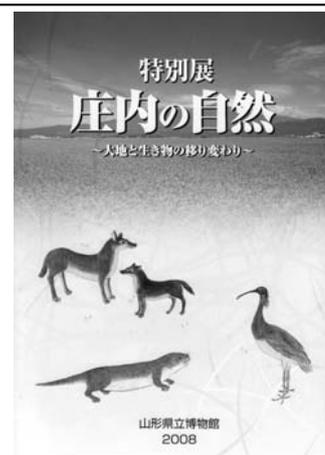
友の会会員価格 600円 77ページ

博物館では、特別展「庄内の自然」を開催中（11月23日まで）です。庄内地方は、暖流の影響を受けて内陸部よりも温暖で、内陸部には見られない動植物があることは常設展示テーマのひとつになっています。

今回の特別展では、庄内砂丘のなりたちや、植林の歴史など、常設展示では扱っていない庄内の自然について取り上げています。また、遊佐町にある小山崎遺跡から出土した動物の遺骸（シカやイノシシの骨など）を見ると、当時の人々が食べていたものから、この地域にどのような生き物がいたのかを想像することができます。自然の記録として卓抜しているのが、庄内出身の松森胤保と中村正雄の残した図譜で、自然を探究する情熱を感じます。まだ会期中ですので、ぜひ博物館まで足を運んでいただきたいですし、展示図録にはご紹介した内容が詰まっていますので、展示とあわせてご覧ください。

この図録は、博物館1階相談コーナーで見ることができ、購入することもできます。

なお、友の会出版物に会員価格を設定することになりました。既刊分についても、会員価格でお求めいただけますので、この機会にぜひどうぞ。



山形県立博物館からのお知らせ

◇—ミュージアム週間（11月1日～11日）のイベント—

○11月1日～11日 国重要文化財・西ノ前土偶展示

○11月3日無料開館イベント

体験！ 昔の遊び・昔の道具

時間：午前10時～午後3時

会場：体験広場・学習室

紙とんぼ・輪ゴム鉄砲などを作ります。

講演「カエル博士といっしょに学ぶ 山形のカエル」

講師：藤田保健衛生大学

研究員 長谷川嘉則氏

時間：午前10時～12時

会場：本館講堂

ギャラリートーク

時間：午後1時30分～

会場：第三展示室

◇第2回山形県立博物館友の会講演会「山形県の寺子屋を追って その2」

期日 平成20年12月6日（土）午後1時30分～3時

講師 山形県立博物館友の会会長 石島庸男氏

◇特別展「庄内の自然—大地と生き物の移り変わり—」

期間 平成20年9月6日～11月23日

※展示解説会 11月16日（日）午後1時30分より

